

Topic 大阪大学シンポジウム「SDGsの『学び』が世界を変える。 社会課題を『自分ごと』にする教育と実践」

2025年12月4日、グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）とオンラインのハイブリッドにて、大阪大学シンポジウム「SDGsの『学び』が世界を変える。－社会課題を『自分ごと』にする教育と実践」を開催しました。

本シンポジウムは、大阪大学全学教育推進機構OU-SDGsプログラム・主催、同学社会ソリューションイニシアティブ・共催により行い、大学や高校等の教職員、学生、産学官関係者、一般の方など、計105名の方にご参加いただきました。ドイツ・ハンブルク工科大学のSönke Knutzen氏、楽天グループの川那賀一氏、パソナグループの福田翔氏、青田朱実氏をゲストとしてお迎えし、講演会、パネルディスカッション、学生発表会、特別講演会の4部構成で、参加者の皆さんとともに、社会課題を『自分ごと』にする教育と実践について、活発な意見交換を行いました。



<https://ou-sdgs.celas.osaka-u.ac.jp/report/1464/>



Topic 一年生クラス代表懇談会

全学教育推進機構では、「教員と学生との対話」の具体的な実践活動の一環として、毎年度6月と12月にクラス代表懇談会を開催しています。1年生のクラス代表と、共通教育・学生生活にかかわる学内の関係部署の教職員の参加のもと、少人数のグループに分かれ授業や履修、学生生活全般について、毎回、活発な議論が繰り広げられています。2025年度は、全学教育推進機構の教職員のほか、マルチリンガル教育センター、キャンパスライフ健康支援・相談センター、附属図書館、教育・学生支援部教育企画課学務情報係、大学生協の担当者に参加いただき、学生からの質問に直接回答いただきました。



懇談会で寄せられた意見をもとに、関係各所で改善に取り組んでいます。2025年度には、AEDの設置場所が分かりにくいという指摘に対して、エレベーター内や掲示板に掲示し周知を強化するとともに、フロアマップへの記載を見直しました。また、生理用品の設置場所の拡充を求める意見に対して、関係部署と調整を行い、増設に向けて具体的に動いています。総合図書館では、トイレへの消音装置の設置要望に応じて追加設置が行われたほか、学生からの意見を受けてごみ箱の設置場所の案内も検討されるなど、学生の意見をもとに関係部署でも改善に取り組まれています。クラス代表懇談会当日の様子や、学生からの意見・要望、それを受けた関係各所からの回答については、全学教育推進機構のホームページに掲載されていますので、ぜひ一度、ご覧ください。



<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/activities/class-mtg/>



大阪大学OU-SDGsプログラムは、持続可能な社会の実現に資する人材を育成する教育プログラムです。プログラム構成科目より所定の単位数を修得した学生に対して修了認定証を授与する他、学内外の組織と連携し、学生の皆さんへ様々な情報、機会、リソースを提供しています。

2025年6月22日には326名の大阪大学の学生が、EXPO 2025 大阪・関西万博の機会を捉えて開催されたEO One World Day と題した世界学生起業家コンテストGSEA 世界大会決勝を鑑賞し、万博会場を見学しました。そして、SDGsに対する意識や考えの変化、気づき、また「いのち輝く未来社会」とはどのような社会か、どのように実現し得るかについて探究しました。

また、2025年6月28日～29日には、パソナグループ Awaji Youth Federation (AYF)との合同主催により「未来へ導く：持続可能な開発目標インパクトキャンプ 2025 @淡路島」を開催しました。大阪大学の学生18名が参加し、世界13か国から集まったAYFフェローと共に、持続可能な開発の取り組みについて探究しました。参加した学生は、EXPO 2025 大阪・関西万博での観察や経験を踏まえ、SDGs に沿った議論に取り組み、自身の考えやアイデアを発表しました。

更に、2025年8月28日には、大阪大学D&Iセンターと共催し、認定NPO法人虹色ダイバーシティから講師をお招きして、「LGBTQを含む誰もが暮らしやすい未来社会」について考えるワークショップを開催しました。このワークショップには大阪大学の学生13名が参加し、「LGBTQを含む誰もが暮らしやすい未来社会」とその実現に向けて、自分たちが日常生活でできること、また、大阪大学でできることに関してグループワークを行い、自身の考えやアイデアを発表しました。



<https://ou-sdgs.celas.osaka-u.ac.jp/outcomes/>



Pickup

基盤教養教育科目（総合型科目）「証券投資を学ぶ」

近年、社会では金融リテラシーの重要性が認識され始めていますが、当機構は大和証券グループの全面支援を得て、令和7年度春夏学期に基盤教養教育科目（総合型科目）「証券投資を学ぶ」を実施しました。99名の履修登録者は、大和証券グループの多彩な講師陣の指導のもと、証券、経済あるいは金融に関する基礎知識を学び、現場で実際に証券運用に携わる大和証券エクイティ営業部の講師が指導するグループワークをおこないました。最終回授業では、大和証券株式会社常務取締役 菅間洋平氏によるあいさつ・講話があり、学生は産学連携授業の醍醐味を感じ、刺激を受けたようです。また、授業終了時に実施したアンケートでも高い満足度が示され、学生からは「投資に興味をもてるきっかけになりよかった」「講師の解説が明確でわかりやすかった」等の意見が寄せられました。



健康スポーツ科学教育研究環

大阪大学健康スポーツ科学教育研究環は、人生100年時代における新たな学びの拠点として、心身データDXを活用したヘルスプロモーションの推進を目指し、多様なステークホルダーとの協働を進めています。

今回の第2回一般公開シンポジウムでは、個人から地域、さらにはグローバルにまで広がる健康課題について、データに基づく課題抽出と解決策を共有し、今後の連携強化に向けた意見交換を実施しました。また、全学教育推進機構教員が兼任する健康スポーツリテラシー部門からは、身体活動・運動・スポーツの理論と実践に基づく教育研究、システムアプローチによる行動変容支援、大学ウェルビーイングの実現に向けた各種取り組みが紹介されました。



イベント報告

はじめてのゴルフ体験会

ゴルフは年齢や性別を問わず楽しめる生涯スポーツとして世界的に親しまれ、日本では1901年、六甲山に神戸ゴルフ倶楽部が設けられたことが始まりです。

2025年11月20日、12月4日、18日の昼休みに教職員向けの体験会を実施し、延べ32名が参加しました。体験会ではグリップや姿勢、スイングの基本を学び、はじめはボールに当てるのが難しく、苦労している様子も見受けられましたが、練習を重ねる中で着実な上達を見せました。参加者からは「ゴルフを始めるきっかけになった」「運動の楽しさを再発見した」といった声も寄せられ、学内の交流促進や健康づくりにつながる有意義な機会となりました。中にはコースデビューに挑戦する方もいらっしゃいました。今後も機会を作りますので是非ご参加いただけますと幸いです。



ノルディックウォーキング体験会



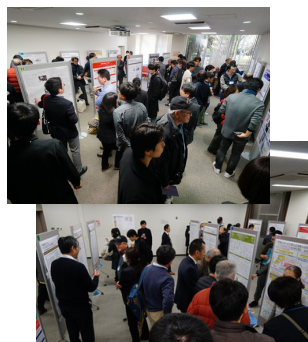
ノルディックウォーキング(NW)は、1990年代にフィンランドで発祥したニュースポーツです。2本のポールを斜め後方に突き押しながら歩くことによって全身の筋肉の90%が使用され、ふつうのウォーキングに比べて消費するエネルギー量が20%以上増加します。

12月2日と9日の昼休みに、教職員向けのNW体験会を開催し、延べ14名の方が参加されました。体験会では、NWの基本であるポールワークの練習を行いました。練習中、ポールを持つと手と足がそろってぎこちない歩き方になったり、ポールをスムーズに押せなかったりと悪戦苦闘するシーンもありましたが、最終日は、全員で機構裏手の急坂をポールを使って力強く歩き、かさねの芝生でポールを突き刺しながら軽快に歩くことができました。体験会后に、参加者の方から「運動後に身体の調子がよくなり、帰宅後も楽しい気分になった」とのコメントもいただきました。今後も、教職員の健康増進のためNW体験会を定期的に開催していきますので、皆さま奮ってご参加下さい。

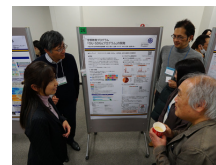
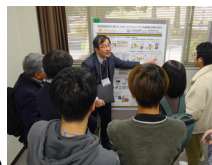
第10回大阪大学豊中地区研究交流会

2025年12月5日に基礎工学国際棟にて開催され、当機構からは2組がポスター発表を行いました。

2016年にスタートした「大阪大学豊中地区研究交流会」は、2025年に節目となる第10回を迎えました。理学研究科ホームページでは、豊中地区研究交流会の誕生の経緯や10年の歩みの振り返りを掲載し、分野を超えた知の交流の軌跡を紹介しています。



- ◆七五三木 聡
「視覚神経科学に基づくスポーツパフォーマンス最適化技術の創出」
- ◆坂口 愛沙、金森 サヤ子、中村 征樹、進藤 修一
「学部教育プログラム「OU-SDGsプログラム」の開発」



<https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/event/16209/>



令和7(2025)年度 着任・異動教員紹介

2025/4/1 着任

全学教育推進機構 全学共通教育部門 中川拓郎 教授

2025年4月に全学教育推進機構に着任した中川拓郎です。
大阪大学も更なる飛躍が期待されています。気持ちも新たに、本学の教育と研究に精一杯つとめて参ります。

専門は分子生物学で、われわれヒトを含む全ての生物の細胞が持つ染色体について研究しています。染色体DNAを安定に維持することは細胞やヒトの健康にとって重要です。しかし、一見矛盾しますが、染色体DNAがダイナミックに変化することは多様性の獲得や進化にとって不可欠です。わたし自身も、柔軟に変化しながら成長し続けたいと願っています。

休日は、時折、映画を観に行ったり、妻と一緒に寺社を巡ったりして気分転換しています。



研究にまつわるクイズ ?!

Q : 面白い研究に欠かせない「運、鈍、根」とはなんでしょう?

A : 答えはこちら ▶



2025/4/1 異動

全学教育推進機構 スポーツ・健康教育部門 藤田和樹 教授



私の専門はトレーニング科学です。筋トレによって肥大した筋肉は、トレーニングを中断して萎縮しても、再び鍛えた時に短期間で肥大する性質を獲得します。この現象を「マッスルメモリー」といい、筋トレによって筋細胞内に増殖した「筋核」が、運動をやめても残り続けることが原因と考えられています。

第70回江戸川乱歩賞受賞作『フェイクマッスル』は、現代のフィットネス文化や最新のトレーニング科学を背景にしたミステリー作品です。筋トレ、ボディメイク、SNSの承認欲求など、若者に身近なテーマが巧みに織り込まれ、読み進めるほどに「何が本物で、何が偽物なのか」という問いに強く迫られます。これから筋トレを行う大学生の皆さんにも、マッスルメモリーを含む筋肥大の仕組みやドーピングによる健康被害を考えるきっかけとなるお勧めの一冊です。

編集後記

今年はフルマラソン完走を目標に日々精進します。(K)

老眼鏡、もといリーディンググラスで世界が急に親切になりました (U)

暖かくなってきたので、鴨川でのピクニックを再開しました。(S)

小さな書店のアートワークショップに月1ペースで参加し始めました。(H)